

FLUTE ONLINE  
For the better life in the sound life

ニュース NEWS マガジン MAGAZINE ショッピング STORE 定期会員 GOURNEMENT 検索をす SEARCH

木村奈保子の音のまにまに

Entertainment · Essay WEB連載

Written By NAHOKO KIMURA

木村奈保子の音のまにまに | 第56号

マイノリティーのドラマを追い続ける映画界の今後

2023-06-01 ONLINE登録 フルセグ登録 木村奈保子

今年のカンヌ映画祭では、日本の話題として、ヴィム・ヘンダース監督作「PERFECT DAYS」で役所広司が主演男優賞、是枝裕和監督作「怪物」の脚本家・坂元裕二が脚本賞を受賞した。現代の日本映画では、役所広司と是枝監督といえば、海外に通用する才能という意味で、信頼の逸材だ。

とりわけ、是枝監督作品は、社会の底辺にいる貧困家庭や恵まれない子供たちを題材に、問題意識を常に持ち、アートで走り過ぎない演出で期待を外さない。

さらに、今回はオリジナル脚本で、テレビドラマのヒットメーカーと組んでいる。

今回出した映画「怪物」が、「クイアーア・パリム賞」を受賞しているのがますます深い。クイアーア、とついているように、LGBTQなどのマイノリティーの意味がある。

いわゆるモンスター映画ではなく、いまだに怪物のように扱われることがあるクイアーアを題材にしている。

アメリカ映画では、メジャー大作でも西部劇ヒーロー像をひっくり返したゲイ・ウエスタン「ブローカバックマウンテン」（2006米）、ブラックダイの純愛で、アカデミー賞歴史を変えた「ムーンライト」（2016米）など、もはや出尽くした感のあるゲイ・ジャンルだが、日本映画としてのアプローチは新鮮で、今回特に、脚本が注目されたのだと思う。

子供視点で進むするストーリーは、ビュアで美しい愛の始まりだが、大人たちにとっては、ゲイの存在が怪物のように見えるのか？

性的マイノリティーへの偏見の目を持つ者こそ、怪物ではないのか？

いわゆる怪物は誰なのか、を問う社会派作品。

いじめや虐待など、子供の命が守られない現代社会で、何が起きてるのか？

少年が、信頼できる校長先生とトロンボーンを吹くシーンも意味深い。

言葉を使わず、音ででき出す関係で、伝わるものは？

既に話題の、大人による少年への性搾取という問題が広まる中、ゲイであることと性搾取やセクハラは、当然ながら別物である。

さて最近のゲイ映画では、「インスペクション ここで生きる」（2022米）が新しい。

タイであることから16歳で親に捕られ、10年間のホームレスを経て、それでも自分を奮起させ、海兵隊に入隊する主人公の物語。

魔場所を見つけるたま、まとうな人間に更生して、母親に認められた行動するも、愛は得られるのか？

黒人であり、ゲイであるアイデンティティを守りたい主人公が、社会で、家庭で、いかに迫害され、受け入れられないのか？

自分自身であることをあきらめない男の物語が、切ない。

「お母さん、なんであかんの？」 ゲイやったら、なんであかんの？」

母親は、自分の視点で息子を怪物とみなし、拒否するしかないのか？

海兵隊の所作を得て、きりり美しいジエリーニ・ボップは、ファッション界でも注目されるスタイリッシュな俳優だが、汗だくの男社会で自分を貫く複雑な心理を生きしく見せせる。

新規監督の実体験を基にしたゲイ・ストーリーだから、映像はひたむきに訴えたいエネルギーと躍動感にあふれている。リズミカルな編集は秀逸だ。

考えると、これはゲイにあてはめているだけで、親によっては、音楽に向かう子供を受け入れない、とか、こうしないといけないというような毒親は、少くないだろう。

子どもからすると、受け入れられないのは、大人たちの性的搾取。

受け入れられないのは、大人たちによる押しつけと支配だ。

それでも、本作の主人公は、自分をあきらめない。愛をあきらめない。

前向きなパワーナミング作品だ。

もうひとつ、前向きなエネルギーにあふれる作品といえば「裸足になって」（2022仏・アルジェリア）が素晴らしい。

アルジェリアでバレリーナを目指すヒロインが、或る日、階段から突き落とされ大けがを負い、話すことなく、踊ることもできなくなってしまうところから物語は展開する。

絶望の中、リハビリ施設で、うろ者たちにダンスを教えるきっかけから、何が始まるのか？

目をみるはべきは、主人公を演じるリナ・クードリのダンスだ。

自然の中で、風や水の音を感じながら自由の動きを見せコンテンポラリーダンスは、まさに、技術を超え心の叫びのよう。

型にはまらず、実にスリリングでわくわくする。

わざとらしい振付や構成にしばられない自由さに、観るものまで解放される。

クードリは、もはやダンサーにしかみえないが、映画「オートクチュール」（2021仏・アルジェリア）で印象的なお針子少女を演じた女優である。

クードリのアルジェリア出身の血と才能は、マイノリティーのドラマを追い続ける映画界で、ますます重宝される存在なりそうだ。

映画は、娯楽だけではなく、さまざまな視点で、社会がバージョンアップされていくことにも目を向けてほしい。

NAHOK Information



## 木村奈保子の音のまにまに

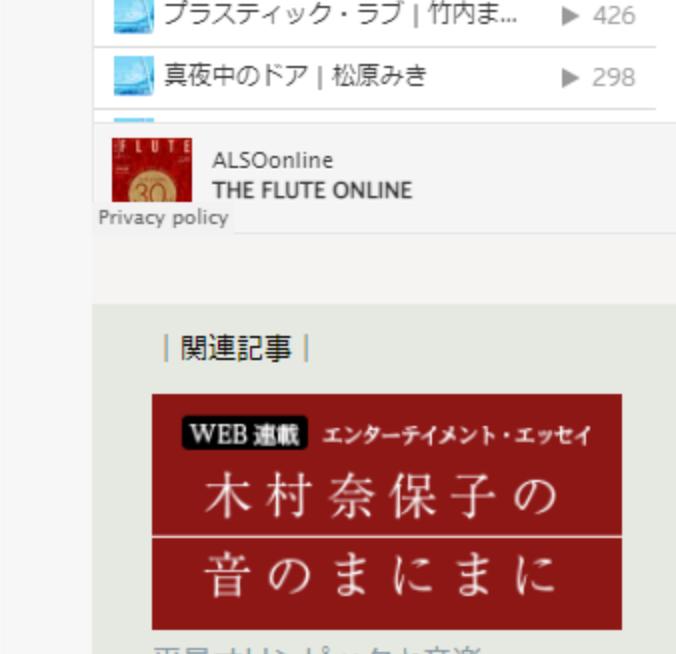
Written By NAHOKO KIMURA



レベルアップのための基礎練習見直し講座  
カバー：アンドレ・リーバーケヒト  
THE FLUTE 最新号193号  
THE FLUTE パックンバー  
FLUTE 入会・更新はこちら  
フルト楽譜一覧

ENTRY投稿・応募へ

&gt;&gt; THE FLUTE アンケート一覧へ

2/23より  
第1弾 公開中

▶ 157

▶ ブラック・イン・エンブリジョン... ▶ 157

▶ フルトと通奏低音のためのア... ▶ 148

▶ 最後の歌ノハスティ ▶ 86

▶ 子守歌ノオーレ ▶ 97

▶ ハンガリーの恋想曲/ドップ... ▶ 135

▶ SPARKLE 山下智樹 ▶ 294

▶ DOWN TOWN シグマ・ベイブ ▶ 443

▶ 中央アフローライド 荒井由美 ▶ 492

▶ 着は天然色 | 大庭樹一 ▶ 511

▶ 憐しみがましまな | 吉里 ▶ 309

▶ ブラスティック・ラブ | 竹内ま... ▶ 426

▶ 黒夜のソラ | 松浦みき ▶ 270

▶ ALSOonline THE FLUTE ONLINE Privacy policy

▶ 関連記事 |



平昌オリンピック音楽



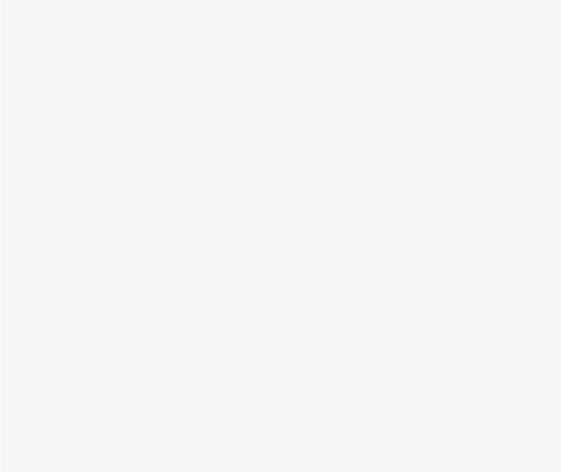
WETオーラの土壤、日本では？



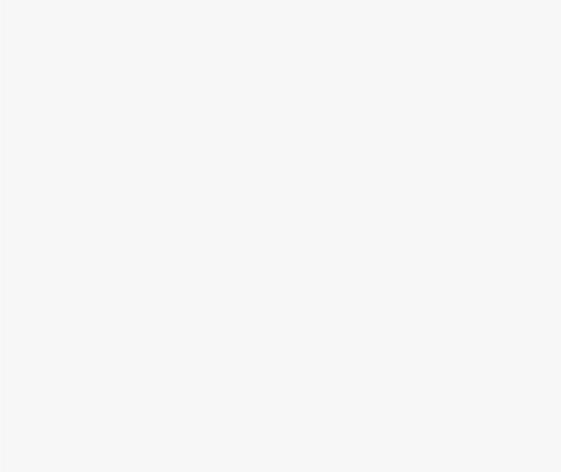
女王陛下の帝王と英国王室にみる男女関係



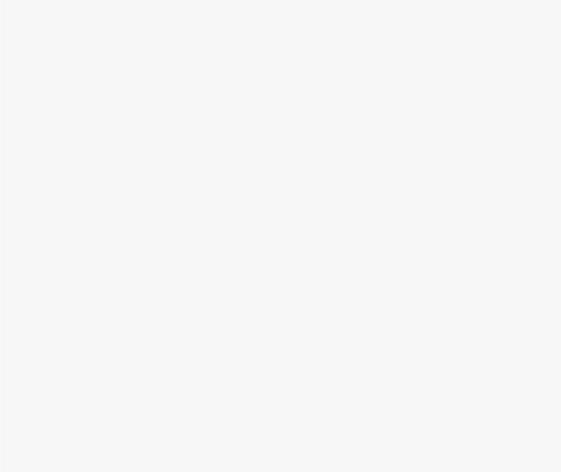
女性の告白に、なぜ目をつぶるのか？



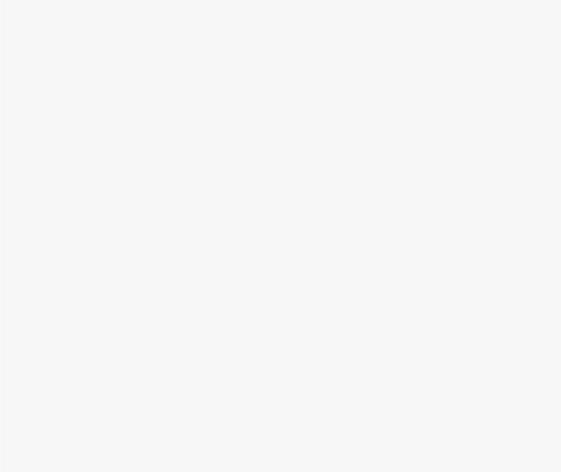
WEB連載 エンターテイメント・エッセイ



メTooの土壤、日本では？

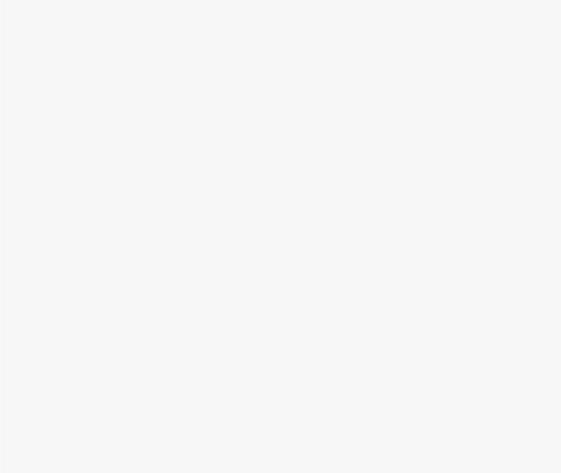


エリック・クラプトン・サウンドとかわむ生きてるの物語～

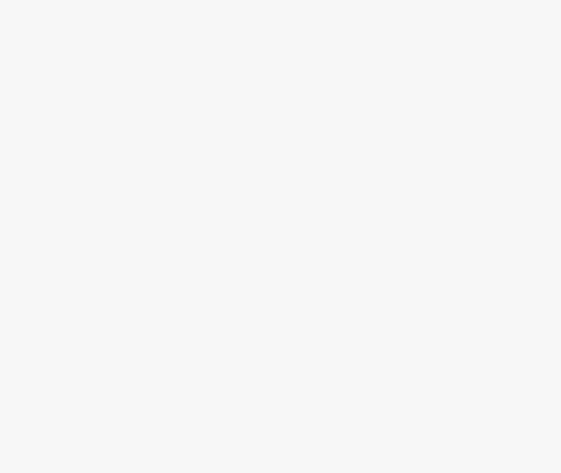


新しい生活様式とともに、新たな文化を…！

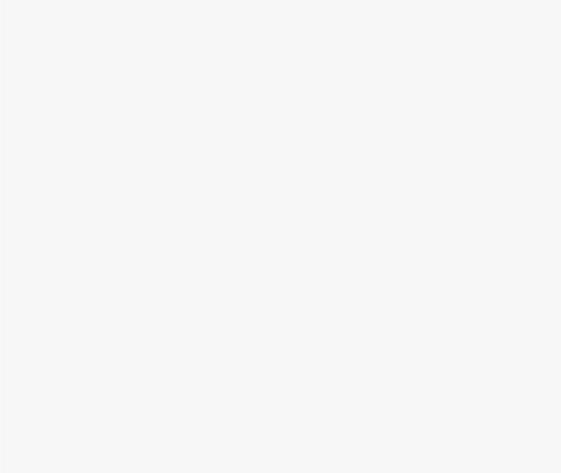
今話題の人気記事 HOT TOPICS



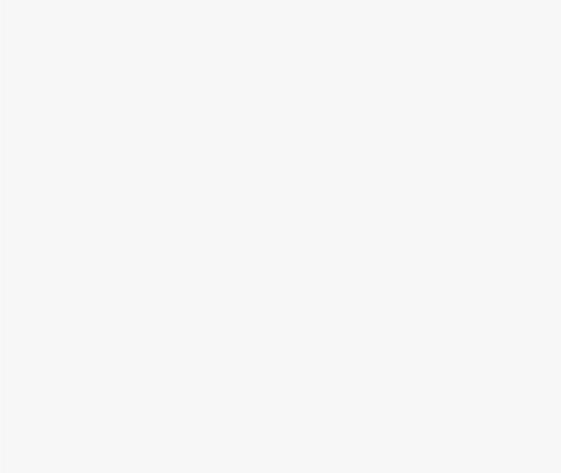
マイノリティーのドラマを追い続ける映画界の今後



全日本吹奏楽コンクール2023課題曲吹奏楽曲

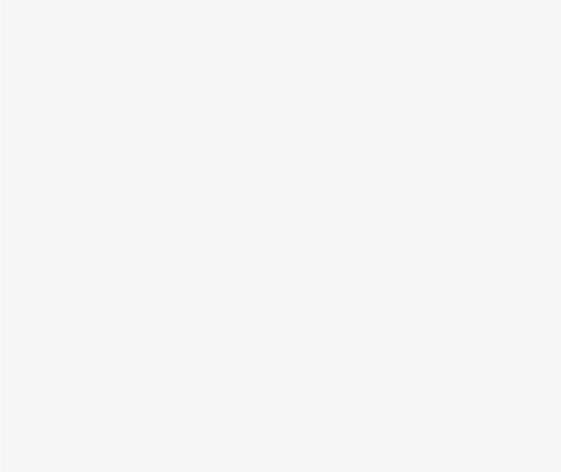


第10回 書く書くしかじか



グローバル化エンターテインメントの競争を求めて～エンターテインメント界の性加害の終焉

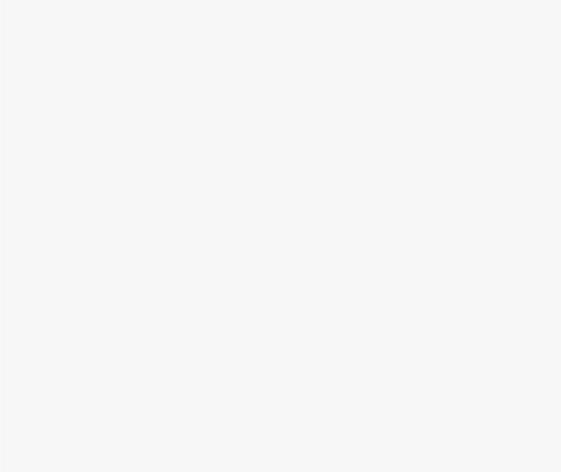
WEB連載 フォト・美術



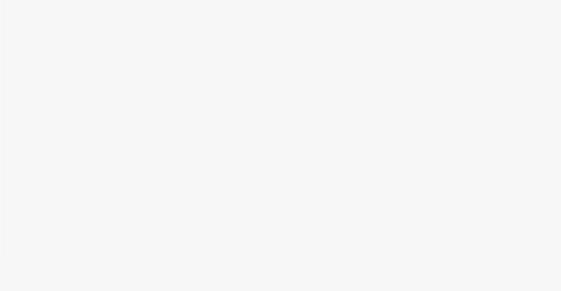
File:31 | 読めばく。日本について リンクスのフルトしきり

クスのフルトしきり

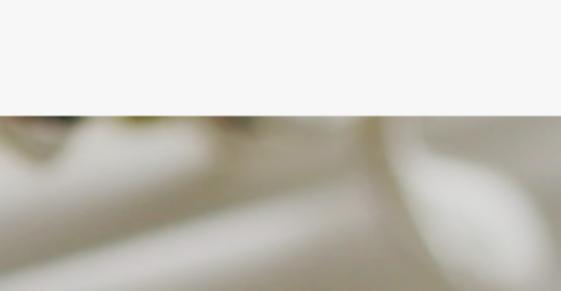
自作フルトフルト



見直そう、ロングトーン



見直そう、ロングトーン



指直さう！ タンブルングマスター



スケール練習を一工夫

木村奈保子の音のまにまに

MOVIE Information

## 「怪物」6月2日(金)全国公開

【監督】是枝裕和

【脚本】坂元裕二

【音楽】坂本英一

【出演】安藤希、永山瑛太、黒川想矢、柊木滉太、角田晃生、中村翫童、田中裕子

【配給】ギャラ

【原題】THE INSPECTION / 2022年 / アメリカ / カラー / シネマスコープ / 5.1ch / 95分 / R15+ / 日本語字幕 / 松浦美奈

© 2023 Ocean Productions LLC All Rights Reserved.

[公式HP] https://gaga.ne.jp/kaibutsu-movie/

新人監督の実体験を基にしたゲイ・ストーリーだからか、映像はひたむきに訴えたいエネルギーと躍動感にあふれている。リズミカルな編集は秀逸だ。

考えると、これはゲイにあてはめているだけで、親によっては、音楽に向かう子供を受け入れない、とか、こうしないといけないというような毒親は、少くないだろう。

子どもからすると、受け入れられないのは、大人たちによる性的搾取。

受け入れられないのは、大人たちによる押しつけと支配だ。

それでも、本作の主人公は、自分をあきらめない。愛をあきらめない。

前向きなパワーナミング作品だ。

もうひとつ、前向きなエネルギーにあふれる作品といえば「裸足になって」（2022仏・アルジェリア）が素晴らしい。

アルジェリアでバレリーナを目指すヒロインが、或る日、階段から突き落とされ大けがを負い、話すことなく、踊ることもできなくなってしまうところから物語は展開する。

絶望の中、リハビリ施設で、うろ者たちにダンスを教えるきっかけから、何が始まるのか？

目をみるはべきは、主人公を演じるリナ・クードリのダンスだ。

自然の中で、風や水の音を感じながら自由の動きを見せコンテンポラリーダンスは、まさに、技術を超え心の叫びのよう。

型にはまらず、実にスリリングでわくわくする。

わざとらしい振付や構成にしばられない自由さに、観るものまで解放される。

クードリは、もはやダンサーにしかみえないが、映画「オートクチュール」（2021仏・アルジェリア）で印象的なお針子少女を演じた女優である。

クードリのアルジェリア出身の血と才能は、マイノリティーのドラマを追い続ける映画界で、ますます重宝される存在なりそうだ。

映画は、娯楽だけではなく、さまざまな視点で、社会がバージョンアップしていくことにも目を向けてほしい。

NEW! 木村奈保子の音のまにまに

NEW! 木村奈保子の音のまに